

「写真データベース・戦後編」の概要と進捗状況

伊 東 久 智

大学史資料センター（以下センター）では、所蔵する戦前期の写真三三三九二レコードをすでにデータベース化し、現在「早稲田大学文化資源情報ポータル」上において公開している（以下写真DB・戦前編^①）。その写真の多くは、『早稲田大学百年史』の編纂過程においてセンターの前身・大学史編集所が収集したものであり、その後も寄贈等によって集めた戦前期の写真を適宜追加しつつ、現在に至っている。

写真資料に関する利用申請はセンターに寄せられる各種問い合わせのなかでも比較的大きな比重を占めており、今後ともレファレンス業務の充実を図るため、写真DBの整備は優先的に進められるべき重要課題といえる。加えて、それは現在進められている『早稲田大学百五十年史』編纂においても必要とされる作業であることはいうまでもない。写真DBの整備といったとき、具体的には、①戦前編の充実、②戦後編の公開という二つの作業を意味している。

まず①については、年々蓄積されてゆく寄贈資料等に含まれる写真の追加はもちろんのこと、現在DB中には含まれていない卒業アルバムをはじめとする各種アルバム類（目録はセンターのホームページ上で公開）に掲載された写真の追

加も大きな課題である。

以上を踏まえた上で、以下では上記②、写真DB・戦後編の概要と進捗状況について報告を行うこととしたい。現在センターが所蔵する戦後期の写真は、寄贈資料中に含まれる断片的なものを除けば、そのほとんどが本学広報室広報課から複数回にわたって移管されたものであり、大きく五つの写真群を形成している。まずはその各写真群の概要を摘記しておこう。

広報課移管写真① 昭和三〇年代 大学訪問著名人

レコード数	三九八
分類	人物
備考	アインシュタイン、石橋湛山、ロバート・ケネディーほか昭和三〇年代に本学を訪れた著名人の写真が中心であり、一部戦前の雑写真を含む。

広報課移管写真② 昭和四〇年代 大学関係写真

レコード数	一七四九レコード
分類	学生、学生生活（サークル活動、試験風景、実験・実習活動、授業風景、スポーツ・体育、留学生）、行事（校友大会、早慶戦、卒業式、体育祭、入学試験、早稲田祭）、学生運動
備考	大半が一九六六（昭和四一）年の学費・学館闘争に関する写真であり、その他学生スナップ、学内イベント写真などを含む。

広報課移管写真③ 百年史編纂時収集写真

レコード数	概算一五〇〇〇レコード（デジタル化未着手）
備考	一九六六（昭和四一）年～一九八一（昭和五六）年頃の学内イベント写真、広報紙使用写真ほか。ファイリング整理のみ（ネガ・ポジフィルム）。

広報課移管写真④ 一九八〇年代大学関係写真

レコード数	一〇七六七レコード
分類	安部球場、教職員、教職員以外の人物、行事（昭和六三年度～平成二年度）、事件・催物（昭和五六年度まで、昭和五九年度～昭和六二年度）、体育祭・パレード・体育名誉賞・スポーツ、所沢キャンパス・人間科学部、早稲田祭・理工展、早慶戦・稲穂祭、卒業式・小野梓記念賞、入試・合格発表、入学式・新勧風景、百周年記念事業・行事、本の表紙等
備考	分類は移管時にファイルに付されていたタイトルに基づく。

広報課移管写真⑤ 一九九〇年代大学関係写真

レコード数	概算一五〇〇〇レコード（デジタル化未着手）
分類	1. 大学行事・式典、2. 学生行事・スポーツ、3. 教育・研究、4. キャンパス風景、5. 建物・像
備考	ファイリング整理のみ（ネガ・ポジフィルム）

以上五つの写真群の内、③と⑤を除く①②④の合計二二九一四レコードについては、すでにデジタル化（スキャニ

ングとメタデータの付与)を完了しており、まずはこの三つの写真群を先行的に公開すべく、現在作業を進めている。

しかしながら、戦前編と同様の形でデータベースをリリースするまでには、クリアすべき課題も残されている。例えば肖像権の問題はその最たるものである。写真群④に含まれる教職員の肖像写真などは除外するとしても、個人の特定が可能なスナップ写真の扱いをどうするか(特に学生運動の写真など)、今後はつきりとした公開基準を定めてゆく必要があるであろう。

また、写真群の分類とデータベースの検索方法との関連性についても確認しておかなければならない。戦後編データベースの構築に当たっては、基本的には広報課の分類(移管時点におけるファイリング分類)をそのまま踏襲する方針を採った。それは各写真群毎で見れば問題はないとしても、それらを統合して一元化したときには、整合性を保つことが難しい。

そのため、個別の写真へのアクセス方法としては、戦前編と同様に人物名・撮影時期・全文検索などの項目からなる検索ボックスをトップに配置するのか、あるいは各写真群毎にデータベースを分割(階層化)したり、階層構造を辿れるようにリンクを設定したりといった補助的な操作を加えるのか、検討の余地は残されている。もちろん、ユーザーインターフェイスを戦前編と統一し、戦前・戦後の統合データベースとすることができれば理想的であるが、そのことによって利用者が必要とする写真にアクセスしづらくなるのであれば本末転倒であろう。

今後はこうした課題(肖像権やアクセス方法)に関する協議を重ねるとともに、①デジタル化未済写真群の処理と、②百五十年史の編纂に備えて、広報課をはじめとする学内各箇所が所蔵する二〇〇〇年以降の写真の現状把握・収集により一層努めたいと考えている。

註

(1)

写真DB・戦前編についての詳細は、本誌前巻所載の檜皮瑞樹「新写真データベースの公開について」を参照。また「早稲田大学文化資源情報ポータル」については、山本浩幾「早稲田大学文化資源情報ポータルの公開」(WASEDA ONLINE 文化)二〇〇九年八月一九日号、<http://www.yoninui.co.jp/adv/wol/culture/090819.htm>を参照。